記者発表資料

令 和 ６ 年 ３ 月 ２ ９ 日
東北地方整備局　流域治水推進室

気候変動の影響による降雨量増加に対応するため『東北の全１２水系で流域治水プロジェクト2．０』を公表

流域治水プロジェクトは、上流、下流、本川、支川の流域全体を俯瞰し、河川整備等に加えて、雨水貯留浸透施設、土地利用規制、利水ダムの事前放流など、あらゆる関係者が協働し、各水系で重点的に実施する治水対策の全体像をとりまとめた取組です。

気候変動の影響により、気温が仮に 2℃の上昇に抑えられたとしても、2040 年頃には降雨量が 1.1 倍に増加すると見込まれ、東北地方整備局管内の一級河川（１２水系）では、その影響により浸水世帯数が約９３，５３０世帯増える（現況の約１．８倍）と想定されます。

このことを踏まえ、流域治水の取組を更に加速化・深化させ、地域の暮らしと生業を守るため、各水系の流域治水協議会が、気候変動を踏まえた河川及び流域でのハード・ソフト対策の方向性についてとりまとめた「流域治水プロジェクト2．０」を、東北地方整備局管内全ての一級水系（１２水系）で公表しました。

流域治水プロジェクト 2.0 のポイント

ポイント①：気候変動による降雨量増加に伴う水害リスクの明示

- 気候変動による降雨量増加に伴う水害リスク（浸水世帯数等）の増大を明示。

ポイント②：河川整備と流域対策の新たな目標設定と必要な追加対策等の明示

- ポイント①で示した水害リスクの増加に対応するため、対策の目標を設定。
- その目標を達成するために必要な河川区域内の追加対策（河道掘削、遊水地整備、堤防整備等）を明示するとともに、氾濫域における流域対策の追加対策（田んぼダム、ため池等の活用、ワンコイン浸水センサ設置等）も合わせて明示。

※今回公表した流域治水プロジェクト 2.0 は、東北地方整備局 HP に掲載しています。
https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/ryuikitisui/ryuikitisuipurojekuto.htm

別紙1　流域治水プロジェクト 2.0 の概要

別紙2　各水系流域治水プロジェクト 2.0 問合せ先

＜発表記者会＞
宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会、青森県政記者会、
岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ

問い合わせ先

【流域治水プロジェクト 2.0 の概要について】
国土交通省　東北地方整備局　流域治水推進室
電　話：022-225-2171（代表）
河川計画課　課長　諸橋（もろはし）　拓実（たくみ）　（内線：3611）
建設専門官　岩沢（いわさわ）　博章（ひろあき）　（内線：3613）

【各水系の流域治水プロジェクト 2.0 について】
※別紙２の各水系の担当者へお問合せください

流域治水プロジェクト2.0
～流域治水の加速化・深化～

別紙1

○ 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
  現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

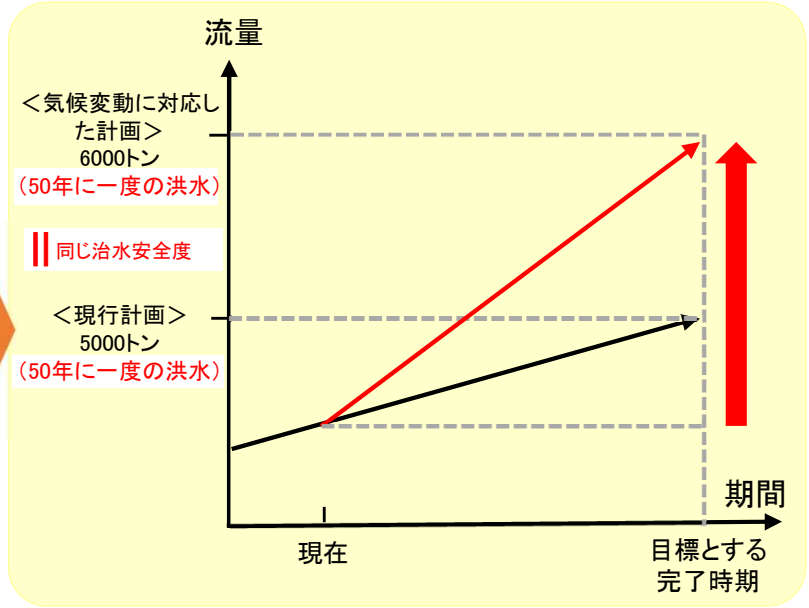
気候変動シナリオ	降雨量（河川整備の基本とする洪水規模）
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

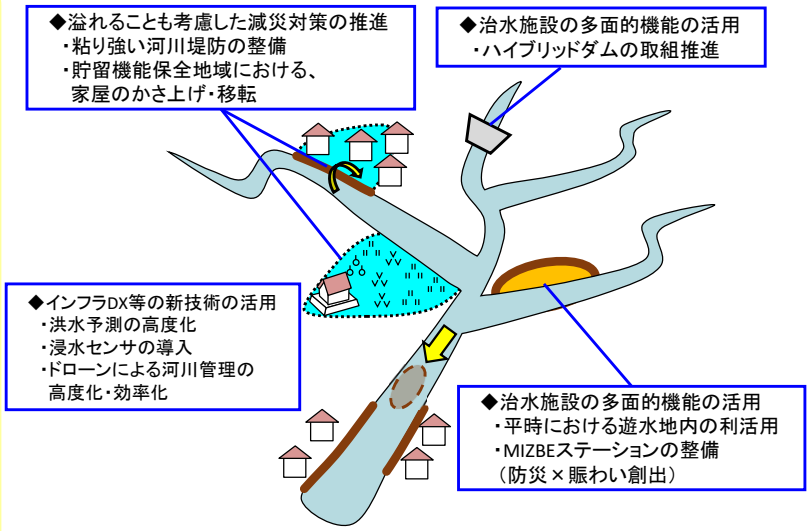
全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動（2℃上昇時）の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍時の浸水世帯数

プロジェクト名	①浸水世帯数 （気候変動考慮前）	②浸水世帯数 （気候変動考慮後）※雨量1.1倍	増分 （② － ①）
岩木川水系 流域治水プロジェクト2.0	約14，750世帯	約19，330世帯	約4，580世帯
馬淵川水系 流域治水プロジェクト2.0	約40世帯（※）	約7，000世帯	約6，960世帯
高瀬川水系 流域治水プロジェクト2.0	約260世帯	約290世帯	約30世帯
北上川水系 流域治水プロジェクト2.0	約28，100世帯	約40，900世帯	約12，800世帯
名取川水系 流域治水プロジェクト2.0	約2，500世帯	約30，000世帯	約27，500世帯
鳴瀬川水系 流域治水プロジェクト2.0	約13，300世帯	約16，800世帯	約3，500世帯
雄物川水系 流域治水プロジェクト2.0	約7，100世帯	約10，200世帯	約3，100世帯
子吉川水系 流域治水プロジェクト2.0	約4，800世帯	約5，400世帯	約600世帯
米代川水系 流域治水プロジェクト2.0	0世帯（※）	約3，500世帯	約3，500世帯
最上川水系 流域治水プロジェクト2.0	約29，700世帯	約35，900世帯	約6，200世帯
赤川水系 流域治水プロジェクト2.0	約1，400世帯	約2，060世帯	約660世帯
阿武隈川水系 流域治水プロジェクト2.0	約20，000世帯	約44，100世帯	約24，100世帯
合計	約121，950世帯	約215，480世帯	約93，530世帯

上記に示した浸水世帯数は、直近の河道状況（最新の測量データ）を元に氾濫計算をした結果であり、概ね30年間の河川整備計画に基づいてこれまで実施した河道掘削等の整備効果が反映されております。

※馬淵川水系及び米代川水系については、当初策定した河川整備計画が概ね完了したことから、令和5年度に気候変動を踏まえた河川整備計画に見直ししております。

各水系の流域治水プロジェクト2.0に関する問合せ先　別紙２

水系名	事務所名	問い合わせ先	内線番号
岩木川水系 馬淵川水系	青森河川 国道事務所	電話番号：017-734-4521 副所長　三浦　俊明（みうら　としあき） 流域治水課長　阿部　洋行（あべ　ひろゆき）	 【内線：204】 【内線：351】
高瀬川水系	高瀬川 河川事務所	電話番号：0178-28-7135 副所長　土田　昭夫（つちだ　あきお） 建設専門官　福士　高義（ふくし　たかよし）	 【内線：204】 【内線：401】
北上川水系 （上流）	岩手河川 国道事務所	電話番号：019-624-3131 副所長　木村　晃（きむら　あきら） 流域治水課長　前田　充典（まえだ　みつのり）	 【内線：204】 【内線：351】
北上川水系 （下流） 鳴瀬川水系	北上川下流 河川事務所	電話番号：0225-95-0194 副所長　石井　貴範（いしい　たかのり） 流域治水課長　片山　一茂（かたやま　かずしげ）	 【内線：205】 【内線：351】
名取川水系 阿武隈川水系 （下流）	仙台河川 国道事務所	電話番号：022-248-4131 副所長　金　真一郎（こん　しんいちろう） 流域治水課長　日野口　厳（ひのぐち　げん）	 【内線：204】 【内線：351】
雄物川水系 （下流） 子吉川	秋田河川 国道事務所	電話番号：018-823-4167 副所長　成田　正喜（なりた　まさき） 流域治水課長　金子　光義（かねこ　みつよし）	 【内線：204】 【内線：351】
雄物川水系 （上流）	湯沢河川 国道事務所	電話番号：0183-73-3174 副所長　阿部　健一（あべ　けんいち） 流域治水課長　佐藤　隆夫（さとう　たかお）	 【内線：204】 【内線：351】
米代川水系	能代河川 国道事務所	電話番号：0185-70-1001 副所長　小山田等（おやまだ　ひとし） 流域治水課長　細川　朋（ほそかわ　とも）	 【内線：204】 【内線：351】
最上川水系 （下流） 赤川	酒田河川 国道事務所	電話番号：0234-27-3331 副所長　郡山　秀樹（こおりやま　ひでき） 流域治水課長　穂積　薫（ほづみ　かおる）	 【内線：204】 【内線：351】
最上川水系 （中流）	新庄河川 事務所	電話番号：0233-22-0251 副所長　畑井　言介（はたい　げんすけ） 建設専門官　鎌田　睦（かまた　むつみ）	 【内線：204】 【内線：401】
最上川水系 （上流）	山形河川 国道事務所	電話番号：023-688-8421 副所長　山影　修司（やまかげ　しゅうじ） 流域治水課長　今野　浩一（こんの　こういち）	 【内線：204】 【内線：351】
阿武隈川水系 （上流）	福島河川 国道事務所	電話番号：024-546-4331 副所長　佐藤　克彦（さとう　かつひこ） 流域治水課長　秋田　桜彩（あきた　さあや）	 【内線：204】 【内線：351】